

令和6年11月6日（水）第6校時 3-4教室 指導者 三尾健一（英語）

1 単元名

題材 TACKLE40（桐原書店）第7回 第1問A・B、第2問A・B、第3問A・B、第4問

2 単元の目標 内容のまとめ：共通テストリーディングの新課程に対応すべく「第1問A・B、第2問A・B、第3問A・B、第4問」について書かれた文章から必要な情報を読み、既習構文の意味や働きを理解する。また、本文の要点や詳細を把握し、それについての確に解答へ導く手法を自分なりに見だし続ける。

3

(1) 本時の目標

- 知識、技能：既習事項の強調構文、否定表現の使い方を確実に理解できる。
- 思考、判断、表現：速読の実践的なスキルを活用し、本文の概要を把握することができる。
- 主体的に学習に取り組む態度：自己を客観視し、どこの箇所で躓くかを分析し、次の対策を練ろうとする。

(2) 展開

学習活動	教師の指導・支援	評価規準及び評価方法
(生徒の立場) 0 本時のめあてを確認する。(3)	(指導者の立場) 本時のめあてを伝える。	
<p>目標:速読読解を通して、正誤の結果のみでなく、自己の解答を客観視して、分析し言語化できるようになる。「仮説『孫子の兵法「敵を知り、己を知れば、百戦危うからず」』」 Strategy(戦略)⇔Tactics(戦術) ⇔ System(システム) ⇔ Technique(技術・技能) ⇔ Fundamental(基礎) 本日のテーマの「Systemのセッションで、memory/processing/inference系を見極めて取り組む。」を伝える。 II 論理的思考力 V 決断実行力探究の段階 01 テマ・課題→仮説 → 05 考察(省察) → 04 結果の処理・モデル化(言語化)</p>		
<p>1 予習箇所の答え合わせをして、「ブレーキ」の分析をフォームへ入力する。第1問～第3問 (7)</p> <p>04 結果の処理・モデル化(言語化)</p>	<p>正解であっても、「◎確信、○半信半疑、△まぐれ」の区別をつけさせる。正解に導いたことを言語化できるようにさせる。</p> <p>数学的フォーマット</p>	<p>自己を客観視し、どこの箇所で躓いたかを分析し、次の対策を練ろうとする。(主体的に学習に取り組む態度) <観察> <Google forms></p>
<p>2 解説を聞く。俯瞰して、ブレーキの種類を捉える。(11)</p>	<p>特徴的、かつ多くの生徒が共有する誤答の解説をし、ブレーキは何だったかを振り返らせる。</p> <p>05 考察(省察)</p>	
<p>3 初見問題を解く。(10) 第4問</p>	<p>①チャンクリーディングをし、文字情報を脳でイメージ化させる。 ②ブレーキ(躓き)があっても、止まらずに読み続ける。 ③ドラフト・要約の箇所で、内容を脳内に記憶させる。</p>	<p>速読の実践的なスキルを活用し、本文の概要を把握することができる。(思考・判断・表現) <マークシート></p>
<p>4 答え合わせをして、「ブレーキ」の分析をフォームへ入力する。(3)</p> <p>04 結果の処理・モデル化(言語化)</p>	<p>正解であっても、「◎確信、○半信半疑、△まぐれ」の区別をつけさせる。正解に導いたことを言語化できるようにさせる</p>	<p>自己を客観視し、どこの箇所で躓いたかを分析し、次の対策を練ろうとする。(主体的に学習に取り組む態度) <観察> <Google forms></p>
<p>5 解説を聞く。俯瞰して、ブレーキの種類を捉える。(10)</p>	<p>特徴的、かつ多くの生徒が共有する誤答の解説をし、ブレーキは何だったかを振り返らせる。</p> <p>05 考察(省察)</p>	
<p>6 本時の振り返りを行う。(1)</p>	<p>「振り返り→言語化→即興性」により、学習の定着が図れたかを反芻させる。(授業中要所でも随時)</p>	<p>教科横断 Vegan 保健、公民 第4問 グラフ読み取り 瞬時の処理能力</p>

◎「おおむね満足できる」状況(B)と判断する生徒の姿の例

主体的に自己を客観視して、英文の速読読解を通じて、自分なりに状況分析を深めようとしている。

(3) 準備物

クロムブック、問題冊子